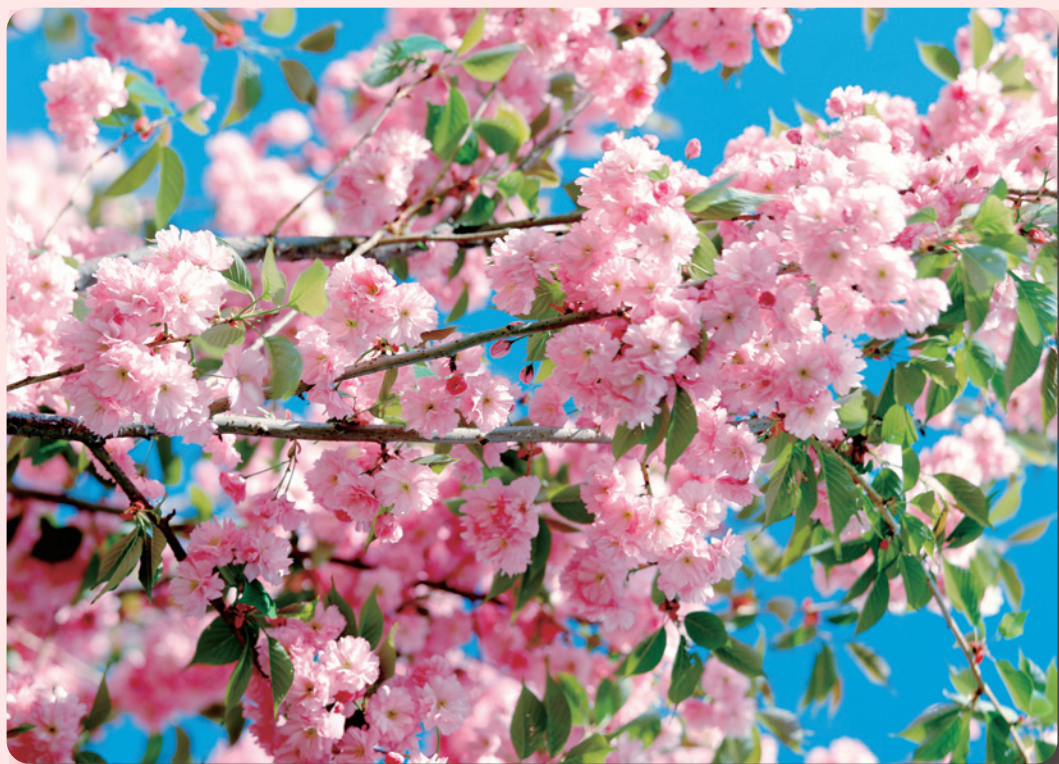


やまびこ

第114号

平成29年 3月



公益財団法人 **八正会**

巻頭言

「一番忙しい人が一番沢山の時間をもつ」

理事長 落 司 量 則

この世で最も平等なのは時間だとよくいわれる。誰にでも一日二四時間の時間がある。しかし時間の使い方に関しては決して平等ではない。人によって大きな差がつく。時間の使い方の差から不平等が生じる。

「忙しくて時間がないためにできなかった」とやらなかった口実にすることは明らかに怠慢である。そういうことを何回繰り返し続けたことかと自己嫌悪に陥ることが自分にもよくあった。

思い立ったが吉日で、やろうと思うことを即始めることが大事だ。資格を取ろうとか、英会話を始めようとか思ってもなかなか機会がなくてとふんぎりがつかない人とは人生で大きな差が出てくるだろう。「時間がなくて」という人は本当にそれをやりたい訳ではないのかもしれない。本当にやりたいことならば、なにをさておいてもやるはずである。

「なぜ実行しなかったのだろう」と振り返ると、ほんのわずか、自分を前に進めるエネルギーが足りなかったのである。最初の一步が大事である。

最初の一步を踏み出すために必要なものにコストを投じてしまうことも一つの方法である。英会話の学校に申し込みをするとか、資格を取るための教材を一そろい買ってしまふとか、自分で自分を追い込んでしまふのも一つの知恵である。

時間を捻出できるようにするには、忙しさを恐れずに、やりたいことを貪欲に追いかけることだ。そうしているうちにやりたいことはちゃんとやれる自分に変っていく。

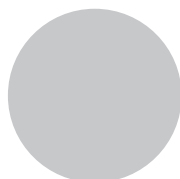
人生をおもしろくするも、つまらなくするも結局、自分の動き方、時間の使い方ひとつである。

プロフィール

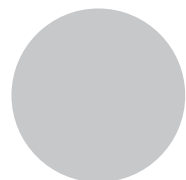
- ①氏名
- ②現住所
- ③出身校
- ④入学校



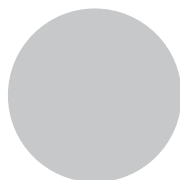
- ①酒井 美絵
- ②倉敷市
- ③琴浦中
- ④就実高校



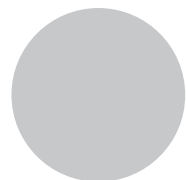
- ①近藤 玲海
- ②岡山市南区
- ③福南中
- ④岡山芳泉高校



- ①大月 佳子
- ②岡山市中区
- ③岡山大学附属中
- ④岡山城東高校



- ①山梨 有希
- ②岡山市北区
- ③京山中
- ④岡山朝日高校



- ①黒田 裕希
- ②岡山市中区
- ③操山中
- ④岡山工業高校

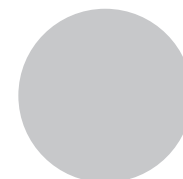


- ①杉岡 由香子
- ②岡山市中区
- ③操山中
- ④清心女子高校

新入会員の紹介

合格おめでとう！

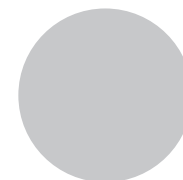
4月より12名の高校生が新しい仲間として入会されます。
温かくお迎えしましょう。



- ①芦田 佳大
- ②岡山市北区
- ③岡山操山中
- ④岡山操山高校



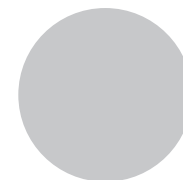
- ①守時 明信
- ②瀬戸内市
- ③長船中
- ④岡山朝日高校



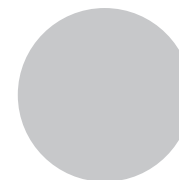
- ①山川 達雄
- ②岡山市南区
- ③福南中
- ④岡山芳泉高校



- ①中村 優斗
- ②岡山市東区
- ③瀬戸中
- ④岡山朝日高校



- ①宇田川 桃佳
- ②倉敷市
- ③東中
- ④倉敷青陵高校



- ①有村 真優
- ②岡山市中区
- ③操山中
- ④岡山一宮高校

目次

巻頭言	理事長 落司 量 則
新入会員紹介	
読書について	理事 南 智 1
微生物	〃 岡 征二 郎 2
石橋を叩けば渡れない	〃 岡 田 浩 明 4
私を支えた心の言葉	評議員 大 山 昇 6
高校三年間を通して	〃 栗 山 恵 輔 6
春になったら	〃 熊 谷 舞 佳 7
卒業とこれから	〃 井 上 真 実 8
大学へ向けて	〃 小林 陽一 郎 9
変わりゆくセンター試験	〃 守 時 優 里 10
高校生活	〃 植 原 勝 也 11
三年間をふりかえって	〃 藤 原 淳 美 12
高校生活を振りかえって	〃 戸 田 花 13
悲願の『花園』出場	〃 名 田 怜 央 14
高校生活を振り返って	〃 吉 川 朋 之 15
大学で挑戦したいこと	〃 濱 田 実 苗 16
近況報告	〃 高校二年 産 本 龍 16
時は金なり	〃 杉 岡 大 輝 17
勝負の年	〃 小 竹 守 花 恵 18
グローバルを感じる時	〃 青 山 公 士 19
高校二年生の今	〃 佐 伯 吏 咲 子 20
三年生0学期	〃 植 本 圭 祐 20

読書感想文	高校二年 三 宅 竜 矢 21
三年0学期	〃 小 西 菖 22
去年の振り返りと今年の抱負	〃 高 校 一 年 武 田 宗 真 22
一年生のまとめ	〃 井 上 唯 23
ゴリラの冒険	〃 日 下 侑 希 24
一年間を振り返って	〃 安 井 絵 里 果 25
チアの練習	〃 濱 田 祐 佳 里 26
二〇一七年になって	〃 高 橋 大 地 27
一年生の思い出	〃 久 保 田 実 歩 28
日常生活のなかの英語	〃 佐 藤 海 斗 29
一年間をふりかえって	〃 小 林 桜 子 30
最近思うこと	〃 井 上 彪 馬 31
一年を振り返って	〃 片 山 歩 31
「平和」な世界をめざして	〃 津 本 宥 海 32
時間の使い方	〃 上 原 志 保 33
部活動について	〃 植 木 龍 翔 34
感謝	〃 笠 富 花 35
一年間を通して	〃 栗 山 裕 唯 36
成長	〃 四 野 見 祥 子 37
お便りコーナー	38
編集後記	40

読書について

理事 南 智

「読書の秋」とはよく聞くが、じつは春も本や読書に関する記念日やイベントが多い。四月二日は「国際子どもの本の日」であり、四月二十三日は「子ども読書の日」である。考えてみると、読書に季節は関係ないとも言えるし、情報化の今、読書環境は大きく変わってきている。

青少年の「活字離れ」が各方面から指摘され始めて久しい。情報機器の扱いに慣れる若い世代は、本よりも手軽に出来るネットで情報を得る割合が高くなっているといわれる。こうした中で、情報化社会を生き抜くうえで読書がどのような意味を持つのか考えてみることも大切なのではないだろうか。

読書についての興味は、子ども時代の本との関わり方に左右されるといわれる。居ながらにして古今東西のいろいろな事柄を知ったり、血沸き肉踊らせて主人公と共に数奇な運命をたどったりするなど、読書の楽しみは尽きない。一冊の素晴らしい本との出会いから読書が習慣化するケースも多く、読書によって思考力や表現力が育っていく。

さて、読書の目的は様々である。教養を高めるための読書もあれば、研究や調査のための読書もある。ひとり静かに書物に接して著者との無言の対話をするることによって、自己の内面を高め深める読書もある。

高校生の「活字離れ」は、国語力の低下につながるばかりでなく、心の貧困化に直接つながっていく心配がある。人の一生は短く、その間に体得できることには限度がある。小説を読んで他人の人生を間接的に摂取し、自分の人生を考えることも大切である。自分とは違う生き方や境遇の人たちのことを知ることや心に刺激を与えることもある。他人の論文を読んでその研究成果を知ること、自分の研究を進めていくために必要である。また、憑りつかれた様に乱読する読者も大切ではないかと思う。何を読むにせよ、読書は人生のあらゆる側面で役立つといえよう。

読書についての格言をいくつか挙げておこう。

○すべて良き書物を読むことは、過去の最も優れた人々と会話をかわすようなものである。(デカルト)

○読書とは、著者の魂との邂逅である。(亀井勝一郎)

○私が人生を知ったのは、人と接したからではなく、本と接したからである。(アナトール・フランス)

○読書は充実した人間をつくり、会話は機転の利く人間をつくり、執筆は緻密な人間をつくる。(フランシ

微生物

理事 岡 征二郎

新聞の広告欄に「生物界を作った微生物」という本の題名が目についた。読んで見ると序章に「動物や植物は生物全体のなかで最も小さなグループ」との表記があった。また「最近の推計によると種の数は多いが、核の中に染色体をもつ動物（いわゆる真核生物）は九〇〇万種類ほどだと動物と植物は真核生物だが過去二五〇年の間に記載された動物は一〇〇万種以下で、植物はわずかに二〇万種類に過ぎない。この種数の推定値と実数との間のギャップを埋めているのが微生物なのだ」と記されていた。ここに記述している内容は、微生物の働きについてこの本に記されていたもので、特にわたくしが興味を持った部分の一部を引用したものである。なお部分的には、意味が変わらない程度に簡略化したところもある。

表面にいる細菌群に覆われ乳酸菌が優占する腔から来る微生物群に接触できないという監察結果に関連があるのかもしれない。母親とごく普通に接触するのと同じように、授乳が乳幼児の腸管に乳酸菌を与えるが、人間が微生物に触れる最初のほんの数時間が決定的瞬間なのである。複数の研究で、帝王切開で生まれた子供にプロバイオティクス（善玉菌）を与えると、確かに乳酸菌が入って効果があったことを認めている。また、フィンランドで行われた研究によると、ヨーグルトのものと同じ複数の細菌を幼児に毎日与えたところ、アトピー性皮膚炎や食物アレルギー、アレルギー性鼻炎、喘息などに対する抵抗力が得られたという。産科医が安全に新生児の口に腔の粘液をほんの少しつけるのに、どれほどの時間がかかるのだろうか。

(2) チャールズ・ダーウィンとミミズ

微細なものを理解するには集中力が必要であり、科学研究の過程でしばしば無視されがちな想像力を働かせることも大切である。

チャールズ・ダーウィンは最後の著書『ミミズと土』の中で飛躍を気にしながら、目に見えない生命現象について、想像力を働かせて書き、亡くなる半年前の一八八一年に出版した。ダーウィンはビーグル号で航海

(1) 抗生物質、微生物、アトピー、喘息

先進国では五歳までにほとんどの子供が複数の抗生物質を投与されている。抗生物質が投与されるたびに微生物叢は大混乱を起こし、数年間かけて自然に出来上がっていた細菌のバランスをくずす。この微生物社会での事故は、いろんな炎症性疾患のもとになるだろう。ヘリコバクター・ピロリは胃炎（胸焼け）や消化器の潰瘍、胃がんなどの関連を疑われて、長い間評判を落としてきた細菌である。一時、抗生物質を投与してピロリ菌を除くと、劇的に胃炎が治ることが宣伝された。常用して消してしまうと、重大な問題が生じるとされている。ピロリ菌は、食欲を抑えるホルモンを分泌することによって、体重をコントロールするのに役立っているが、この細菌の消失は小児喘息の発生増加と関係があるという。

人間が生まれおちてからの一週間が、幼児期からその後まで喘息などのアレルギー性疾患を発症するか否かを決める最も重要な時期になるといわれている。生まれた時の微生物との出会いが決め手になるので、誕生の時までさかのぼって考えてみることにしよう。帝王切開で生まれた幼児は腔を通して生まれた子よりも、喘息の発生率が二〇%以上高いといわれている。このことは、帝王切開で生まれた幼児が、誕生から二四時間以内に皮膚の

してから虫に興味を持つようになり、この本にダウンハウスの庭で何年もかけて行った実験結果を書いた。

まず、ミミズがどのようにして葉っぱを穴に引き込むのか、それを見るために「生の脂肪をこすりつけた」原稿用紙を細い三角形に切って地面にばらまいてみた。もう一つの実験では、ミミズがどれほど早く土を入れ替えることができるか測定するために、砕いたチョークと石炭の燃えカスを埋めてみた。その結果普通のヨーロッパミミズ、ルンブリクス・テレストリスが一ヘクタールの土壌で、落ち葉などの有機物を一年に二六トンも糞に変えるという結論に達した。ダーウィンはミミズが自然の耕耘機の働きをしているという結論を導き、読者に「継続的におこる原因から来る効果をしっかりとらえる」ようにと訴えた。

一つまみの土は生命がないように見えるかもしれないが、その中には一〇億の細菌と数千万の菌類や原生動物が含まれている。細菌だけをグラムとすると、その中には二兆個もの細胞がある。顕微鏡で見て想像力を働かせなければ、とても理解できない数値なのだ。

(3) 海のシアノバクテリアと地球環境

海のいたるところに住んでいる生き物は、プロクロコッカスと呼ばれているシアノバクテリアだが、その細胞

数はほかのどの生物よりかなり多いだろう。海の中には一〇^{二七}個ともいわれている青緑色の細胞が日光の当たる水面に浮かんで漂っている。その数は人体に組み込まれている原子の数(最大推定値は七・〇×一〇^{二七}個)ほどであるという。プロクロロコッカスは可溶性の養分濃度が比較的低い外洋で、大規模に光合成をおこなっている。このことは、シアノバクテリアが地球上の養分循環に大きな役割を果たし、大気中に増えた大量の二酸化炭素を細胞に取り込んでいることを示している。膨大な量の炭素がこの微生物によって固定され、同時に大量の酸素が放出されているのであるから、もしプロクロロコッカスがその働きを止めたなら、この惑星は耐えられない程暑くなり、空気を吸っている生物は、窒息死してしまうだろう。プロクロロコッカスなどの光合成細菌や光合成能を持った原生生物は、地球上における二酸化炭素の取り込み量の半分を受け持っており、陸上の細菌や原生生物、藻類、植物などが光合成によって固定する量に等しいといわれている。

終わりに…微生物は見えないところに潜んでいるのではない。あらゆるところに居場所を見つけて生命体が誕生して以来自然そのものを動かし、地球の先住者として常に出席を待っているのである。

石橋を叩けば渡れない

理事 岡 田 浩 明

春は旅立ちと新しい出会いの季節である。今年もこの八正会から十二人の方が旅立った。私はそのような皆さんに贈った言葉は「やってみる勇氣」である。

古稀を過ぎ自分の人生をふり返ってみると、高校や大学の時代に考えたり体験したこと、出会った人、何気なく手に取った一冊の本に大きな影響を受け、それによって今の自分があるとしみじみ思う。

その一冊の本が「石橋を叩けば渡れない」である。著者は西堀栄三郎さん、化学者であり登山家、雪山讃歌の作詞者でもある。

西堀さんは十九歳のときに天才的な物理学者アインシュ

タインに出会い、彼の「新しいことをやれ、やってみる勇氣が必要」との言葉、そしてあくなき探求心を持って行動する姿に感動し、その後の人生を決めたという。

昭和三十一年に始まった南極観測では、越冬隊長として十人の若者を率いて越冬。研究課題が見つからない隊員には「とにかくやってみること」、乏しい装備と厳しい自然の前で研究を躊躇する隊員には「やる前からあきらめるのは一番つまらないこと」、火災を起こし観測機器と資料をなくした隊員には「失敗してもやり直せば」と励ましたという。

昭和基地の観測ではオゾンホールが発見、オーロラの観測も進み、持ち帰った石から南極が地球最古の土地であることを証明するなど多くの成果を挙げた。同行した若い隊員から「何かやろうと思う情熱があれば努力ができる」との言葉を引き出している。

私も若き日に、この南極観測を固唾をのんで見守っていた一人である。物のない厳しい状況の中で、「やってみる勇氣が必要」との思いで行動し、愚直にひたすらに決めたことに取り組んでゆく姿勢には、大きな感銘を受けた。彼の生きざまは、物が満ち溢れる中に生活している今の私達にとってもよき指針となるに違いない。

山歩きが好きで、地理の教師を目指していた私にとって

あこがれと共に格好の目標でもあった。私も自分の力を試すため山への単独行にトライし、生徒よりも強くありたいとの思いから、空手道部に入部した。

空手道部では、日頃の練習とともに春夏の合宿、寒稽古など全ての行事に参加した。負けん気だけは強く、当時は気力だけで持っていたようである。師範から多くのことを教わったが、「おまえは抜き身の刀を振り回しているようだ。針を真綿で包んだような人間になれ」との言葉は、今でも忘れられない。ひたすらに練習に励んだがなかなか上達せず、それが突然に花開いたのは四年生の時で、広島大学空手道部中四国大会団体初優勝であった。

強くなりたいという単純な思いで入部した空手道部であるが、四年間続けられた自信とともに、師範の教えや、共に励んだ友人との今につながる深い絆ともなっている。

これから皆さんは、多くの人に出会い、様々な体験をし、時には挫折も味わいながら、素晴らしい人生に挑戦されていかれる事でしょう。

今やろうとされていること、それをあきらめないで続けて欲しい。それは必ずどこかで実を結ぶ、私はそう思っています。しっかりと前を向き、「やってみる勇氣」をもって歩んで下さい。

(岡山県理容美容専門学校理事長)

私を支えた心の言葉

評議員 大山 昇

これからの長い人生には、何をやっても巧くいく時期もあれば、やることなすこと失敗が続く苦しい時期もあることでしょう。前者はその流れに乗って、リズム良く勢いで乗り切っていけば案外大きく外れることは少ないように思われます。しかし、人間の価値が本当に問われるのは、後者の「苦しい時期」をどのように耐えて乗り越えていくにかかっていると言っても過言ではありません。

自分の人生を振り返っても、そういったことが何回かありました。その状況に直面した時、私は常にある言葉を思い起こして頑張ってきたように思います。

苦難なくして 勝利なし

いばらなくして 王座なし

受難なくして 栄冠なし

決して慌てたり急ぐことなく、時にまわり道であったとしても、常にこの言葉を思い起こし、自分自身を信じて地道に取り組んでいって欲しいものです。あなたたちの人生において、『栄光に近道はない』のですから。

これからの人生で突然訪れる苦難、いばら、そして受難と言えるものに対して、若者らしく自分の人生を自らの力で一つずつ築き上げ、やがて来るだろう人生における栄光、つまり人生の夢の実現に向けて歩んでいってください。決してあきらめることなく、夢が叶う日まで…。

(元玉野市立東兎中学校校長)

高校三年間を通して

就実高校三年 栗山 恵 輔

三年間というのは、長いように思われましたが、高校の三年間はあつという間に過ぎ、いつの間にかこれが最後のやまびこです。ありきたりですが高校生活が終わりを迎える今の心情を述べようかと思っています。

結論から言いますと、僕の高校生活は充実したものでした。恩師や友人にも恵まれ、この高校に入ってよかったと思いました。入学当時、バスケットボール部に入った当初は勉強との両立が難しかったですが、今となっては勉強を頑張れたのは部活のお陰だったと思います。時間が限られ

ていると集中できるし、仲間と共に努力する時間は心を潤してくれるものでした。三年間同じ教室で過ごしてきたクラスの友人たちも、一緒に勉強して、一緒にご飯を食べ、一緒に笑って騒いだと、とても大切な存在でした。高校生活が楽しかったのは彼らがいたお陰です。担任の国語の先生も恩師の一人です。この人についていけばいいと安心させてくれる、また僕を勇気づけてくれる存在であり、僕の将来、教育関係の仕事に就くという夢をさらに意識させてくれた存在でした。

みんなのお陰で僕は高校生活の集大成である受験に向かっています。英語をもっと早くからやっておけばよかったな(それで今ひいひい言っているの) などと少しの後悔もありますが、勝てば官軍、合格してその後悔を払拭したいと思っています。そして今まで僕を支えてくれたみんなへ、そして支援してくださった八正会の皆さまへの恩返しとして大学に合格し、そして社会で活躍できる人物になるために精進しています。

八正会の皆さま、三年間本当にお世話になりました。ありがとうございます！

春になったら

岡山操山高校三年 熊谷 舞 佳

春になったらいいよ新生活がスタートします。自分が大学生だなんて信じられません。正直なところ、不安な気持ちの方が大きかったりもするのですが、四年間かけて成長できればいいなと思います。

さて、今回の「やまびこ」の原稿では高校三年間の振り返りをしようと思ったのですが、前回の原稿で一足先にまとめてしまっていました。なので、ここでは大学生活に向けての目標を宣言しておこうと思います。

早速ですが、一つ目の目標は「何事も前向きに」ということです。物事をポジティブに捉えることは、自分にも周りにもプラスの影響を与えると思うのです。私自身、どちらかというとネガティブ思考になることが多い人間なので、四年間かけて、物事を前向きに捉える癖をつけたいです。

二つ目は「何事にも積極的に」です。これは高校からの継続した目標です。新しいことを始めるというのは、やはり簡単ではありません。しかし、得るものもたくさんあるのです。私はこれを高校生活三年間で実感しました。なの

で、大学生活四年をかけて、もっともっとたくさんのものを得ようと思います。

三つ目は「自分の意思を明確にもつ」ということです。自分の意思がはっきりしている、つまり芯が通っていることは、人としての大きな強みだと思います。ただ単に流されているだけでは有意義な時間など過ごせません。自分の意思をはっきりさせ、また、オンとオフを明確にすることで、大学生活四年間を有意義なものにしたいです。そして、その次の段階にもつながる自分の強みにしたいです。

大学四年間において、一つも後悔が残らないということは難しいと思います。しかし、日々感謝の気持ちとこれらの目標を忘れず、その時々の方ができる最善の行動を心掛けたいです。

最後になりましたが、八正会の皆様、三年間温かいご支援を本当にありがとうございました。

卒業とこれから

倉敷青陵高校三年 井上 真実

「卒業」という言葉が現実味を帯びてきた。卒業式は三月一日。卒業したくないと思っているのは私だけだろうか。私にとって高校時代は、勉強や部活動をとことん頑張った三年間だったと思う。報われなかった努力はあったけれど、無駄ではなかったと信じていたい。一生懸命頑張ったから、今ではすべてが良い思い出と言える。友達との思い出もつまった学舎に通えるのもあと数十日というのが、とても寂しく感じられる。

この三年間、私は自分の進路や将来についてほとんど悩んだ。入学した時は、学校の先生になることを目指していた。その後、私は先生には向いていないと自覚し、一度目の進路変更。もともと犬などの動物が好きなので、獣医学部、もしくは農学部に進学したいと考えていた。そして三年生の夏前に二度目の進路変更。三年生になって理系の生物選択の人と同じクラスになり、物理選択の私は、生物選択の友人ほど学問としての「生物」が好きにはなれないと考えたからだ。それからは、一年生の時から特に好きだ

った数学や物理の知識が生かせる学問を大学で学び、将来はそれらの知識を用いて人の役に立てるような仕事に就きたいと考えるようになった。

そして今、私は大学で統計学か土木工学を学びたいと考えている。統計学を学びたいと考えるようになったきっかけは、東京大学の教授の、数学に関する講義だった。その時に、数学が社会の問題を解決するのに役立っているということを聞き、私はとても感動した。例えばその教授は、数学を用いて渋滞を緩和するための研究に取り組まれているそう。私もそのように、数学を活用して人の役に立ちたいと考えるようになった。数学を活用する学問の中でも、特に統計学を学びたいと考えている理由は、私はデータを集めて分析するのが好きだからだ。

また土木工学を学びたいと考えるようになったのは、瀬戸大橋を見て、その外観の美しさや構造の精巧さに感動したからだ。橋や道路を作ることで、人々の生活を支えたりより良いものに変えられたりすることも、土木工学を学ぶ魅力であると思う。

この二つの学問のうち、どちらをより専門的に学びたいかということ、私は決めきれなかった。そんな私に、大学入学後に、他学部の教授を自分から訪ねることで自分の専門分野以外の学問も学ぶことができるということを担当

任の先生が教えてくださった。なるほど、大学ではそんなこともできるのか。大学生になれば自由度も増える。どんな大学に通うことになったとしても、大学で学ぶという機会を最大限に生かせるかどうかは自分次第なのだ。そのことを忘れず、置かれた場所で精一杯頑張りたい。

最後になりましたが、八正会の皆様、三年間の多額な奨学金のご支援と研修の機会を本当にありがとうございました。社会貢献という形で恩返しができるよう、これからも頑張ります。

大学へ向けて

岡山城東高校三年 小林 陽一郎

早いことに高校生活も残り一ヶ月となりました。高校に入ったばかりの頃、よく先輩や先生に言われた「高校三年間はあつという間だから。」という言葉をととても実感しています。

僕は進学をするのでここ最近はずっと勉強に追われる毎日が続いています。この四ヶ月はずっと部活をしていて勉

変わりゆくセンター試験

岡山一宮高校三年 守 時 優 里

強をあまりしていなかった僕にとって苦しく厳しいものでした。しかし、受験勉強を通して学べたこともあります。その中の一つに「結果の出る遅さ」というのがあります。勉強を始めた頃の夏休み、これだけ勉強すれば成績も上がるだろうと思って夏休み明けの模試の結果は、夏休み前とたいして変わっていませんでした。そのまま成績の停滞は十二月頃まで続きました。この時期は本当に不安でセンター三週間前にも関わらず目標点に五十点も足りていませんでした。元旦も三箇日もすべて勉強に費やして迎えたセンター前最後の模試で僕はやっと結果が出ました。そのままの勢いでセンターでも自己ベストを更新できました。

結果はすぐには出ない。でもそこでやめたら頑張る前と何も変わらない。そう思いながら長い間勉強してきました。こういった経験はこの先大学・社会に出て行くにあたって何度もすると思います。そんな時はこの受験勉強で培った粘り強さでしっかり乗り越えたいと思います。まだ二次試験も残っていますが、二度とあの地獄のような正月は味わいたくないので頑張って大学に入りたいと思います。

最後になりましたが、高校三年間多額の奨学金をくださった八正会の皆様、本当に有り難うございました。研修で培った経験はこれからの人生に生かしていきたいと思えます。

先日、私は一九九〇年から続いているマーク方式によるセンター試験を受けた。昨年より易しい問題で、ボーダーラインもアップした。今私は、前期日程の記述試験に向けて準備を進めている。時代の変化とともに、求められる人間像も変わり、文科省では二〇二〇年（現在の中学二年生）から新テストへの導入を検討している。「これからの社会では、知識の量だけでなく、自ら問題を発見し、答えや新しい価値を生み出す力が重要になる」という考えからのようだ。

私もこの考え方は理解できる。しかし、五十万人を超える採点を速やかに行うには課題が多過ぎる。今までは、推薦入試やAO入試、前期・後期試験で、各大学が必要な人材をプレゼンや記述試験、小論文、口述試験などにより選んできた。受験生の学力だけでなく、人物も評価し合否を判定してきた。

マーク方式の導入から三十年後を見据え、新しい学力検査を文科省は探っている。一つは「高等学校基礎学力テス

ト」。もう一つは「大学入学希望者学力評価テスト」。前者は、英数国の学習到達度を把握し、生徒の学習意欲を高めたり学習の改善に利用したりする。またそれを、生徒の進学や就職に役立てようとしている。後者は、現在のセンター試験を改良したもので、国数では数十文字以内の記述式問題を導入。また、マーク形式の問題では、他教科を横断する問題や正解が一つとは限らない問題など、より思考力・判断力を重視した出題を検討している。

このように、大きな入試改革を実施すれば受験者に多少の痛みは生じる。しかし、教育という観点から、今世界が求めているのは「グローバルな人材だ」ということを理解させることができるが有意義である。例えば、英語では多くの国公立大で入学者にTOEICを課し単位を認めたり、クラス編成に役立てたりしている。また高校では、英語の「聞く・話す・読む・書く」技能を伝えるレベルまで身に付けさせるため、授業の中に英語での小論文やディスカッションを組み込むことも考えられている。この入試改革が、受験生や日本の将来のためになるという信念の下、大学改革、高校の在り方にまでメスが入ることを望む。「学力社会」の進む世界の先進国では、今も色々なテストにより順位を競い合い、子供たちに大きな負担をかけている。私は本来、「学ぶ」ということの楽しさを子供たちに感じさせ

ることが、教育の出発点ではないかと思っている。生涯をより良く生きる、自分らしく生きるためにも、「学ぶ」という姿勢を子供たちに身につけさせたいものだ。

八正会のご支援の下で、とても有意義な三年間を過ごすことができ、よい思い出となった。この経験を、これから大学生活や、自分の夢でもある教育現場に生かしていきたい。これからのグローバル化社会を生き抜くためにも、常に「学ぶ」姿勢を頭に邁進したいと思う。明るい未来を築いていけるよう、さらに人間力に磨きをかけていきたい。最後になりましたが、八正会の皆様のご活躍とトンボ株式会社のさらなるご発展をお祈り申し上げます。三年間支えていただき、本当にありがとうございます。

高校生活

瀬戸高校三年 植 原 勝 也

僕は今年の三月で高校を卒業するので、この三年間を少し振り返ってみたいと思います。やまびこでは何度も書かせてもらっていますがやはり自分の中に残っているものは、

部活動です。僕が生きてきた十八年の中で、一番本気にな
って取り組んだのが高校での野球です。本気でやったから
こそ野球の技術以外のことも、たくさん学ぶことができました。
試合で結果をだすために一日一日地道に努力する力
は野球以外でも学べるかもしれませんが、僕は野球から学
ぶことができました。地道な努力は、これから何をするの
にも必要になってきます。そんなこれから生きていく上で
自分のためになることを野球からたくさん学ぶことができ
ました。こういうこと以外にも野球をやることで最高の仲
間にも出会うことができました。これも本気で仲間と取り
組んだからこそ得たものだと思います。なので、今までや
ってきた野球、させてくれた親、教えてくださった指導者
の人にはとても感謝しています。

高校生活で得たものは野球だけではありません。野球の
仲間以外にも三年間一緒にすごした友達がいます。友達が
いたからこそ本当に楽しい三年間になりました。出会った
友達も一生大切にしていきたいです。僕は大学へ進学する
ので、高校生活で得たものを活かして夢に向かってこれか
らがんばっていききたいと思います。

な研究をする時間と費用はないわけですから当然教授等の
ものに影響されます。こういうことまで見通しができてお
らず、結局受験前までバタバタするハメになってしまいま
した。
センター試験が終わった今となってはもう自分が選んだ
道につき進むしかないと感じています。そのとき考え
られる限りで決断した進路なのでもう後悔はしていません
が、これで将来が少なからず決まってしまうのかと思うと
不安ではありません。ですが私は、高校生活最後の一年間で、
「見通しを甘くせずしっかりと現実と向きあうことの大切
さ」を実体験で学ぶことができました。この貴重な体験を
生かして、自分の思うことをしっかりと実現できるようにし
たいと思いました。

高校生活を振りかえって

津山高校三年 戸田 花

気がつけば、もう二月。高校三年間はあっという間だと
聞いてはいましたが、こんなに早いとは思いませんでした。

三年間をふりかえって

岡山操山高校三年 藤原 淳 美

まず高校生活をふり返ってみて一番に思うことは、あつ
という間に終わった三年間だったということです。この三
年間の中には高校生ならではの楽しさや将来どうするのか
という焦りを感じていた期間でもありました。今思えば、
高一・二年生の時に自分が本当にやりたいと思うことはな
になのか、またそのやりたいことを叶えるためには高校卒
業後どういう進路をとるべきなのかをしっかりと考え抜く
ことがすごく重要だったんだと感じています。私が高一・
二年生の時に全く考えていなかったわけではありませんが、
やはり先の見通しが大分甘かったように思われます。普通
科高校はやはり大方の人が大学進学を考えているので、家
庭の事情や大学のブランドを考慮して思案しますが私とし
てはもっと学部の研究内容について調べておけばよかった
と少し後悔しています。例えば、同じ「理学部生物学科」
という名前でもそこに所属している教授や准教授によって
自分たちの大学で研究できる内容は変わってきます。大学
院は別ですが少なくとも大学の四年間では自分の思うよう

特に、受験生になってからは異常に早いです。あれ、もう
冬終わるの、この前春だったじゃん。そんな感覚です。二
次試験を控えた今、持て余していた一・二年の頃の時間が
欲しいと本気で思います。

とはいえ、この三年間全く無駄だったという訳ではなく、
色々と経験させてもらいました。趣味も増えたし、友達も
それなりにできましたし、中学生までとは比べものにならない
知識もたき込みました。ほとんどがセンター後に蒸発し
ました。とても充実していたなあと思います。

大学生になるにあたっては、気が負いすぎず抜きすぎずを
目標に頑張りたいです。たしか高校入学当初は、やってや
るぞ精神が強かったのですが、その意気込みもだんだんと
薄れてゆき、結果中だるみしてしまったような気がします。
二の舞は避けたいと思います。

最後になりましたが、三年間多額の奨学金や貴重な経験
の場を与えてくださった八正会の皆様、本当にありがとうございます。
ございました。心から感謝申し上げます。

悲願の『花園』出場

玉島高校三年 名 田 怜 央

今年が最後のチャンスだった県の予選大会で、二十一対十九の僅差で倉敷工業高校に競り勝ち花園の切符を手に入れた。

ラグビーを始めたのは高校に入ってからだったので花園を知ったのもその時だ。ルールも分らないままに必死で練習してきたことで、二年生からは試合にも出してもらえ、自分の武器はタックルだと思えるまでになった。

しかし、三年の四月にバックスへのポジション変更となり、気持ちの整理ができなかったが、とにかくがんばるしかなかった。バックスは駿足で、且つ相手のタックルを交わす必要があるので瞬時の判断が求められた。自分が得意としないポジションであったが、必死に練習をしたその結果が実を結んだ。今までは、ただ漠然と花園に行きたいと思っていたが、自分たちの手で花園の切符を手に入れた瞬間、念願だった夢が叶ったことが本当にうれしかった。

花園出場が決まってからは、取材や遠征など、普通なら三年生は引退している時期にも関わらず慌ただしく今まで

という大きな一歩が踏み出せたことには違いない。

花園という夢の場所で闘ったことは自分の一生の宝物になった。

高校生活を振り返って

総社南高校三年 吉 川 朋 之

高校生活最後の文化祭と体育祭をクラスみんな、そしてチーム別のみんなと成功させることができて、三年生の責任をはたせたと満足しています。

夏休みの後半から準備期間がはじまりましたが、なかなか思うように準備が進まず、先生方から、「今までにこんなことはなかった。」

とまで言われたこともあって、一・二年生をまとめなければならぬ三年生としては、あせってしまいました。

文化の部では、三年生はクラス単位で体育館でオリジナルの劇をするのですが、どんな内容をするかで意見が二転三転し、言い合いになる場面もあり、決定するまでに時間を要しました。結局、幽霊（といっても怪談やホラーでは

経験したことの無い時間が過ぎていった。花園での初戦の相手が決まってからは、相手チームの分析や対策のための練習が中心となって、県予選よりはるかに厳しい練習をこなした。

十二月二十七日、この日、憧れの『花園ラグビー場』で全国高校ラグビー大会の開会式が行われた。大勢の観客の見守る中に地元から応援に来てくれた母と姉の姿もあり、誇らしく胸を張って行進できた。

玉島高校は翌日の二十八日が試合だった。練習試合で鼻を骨折していたが、試合当日はプロテクターを装着して出場した。対戦相手の日本航空石川高校には留学生のトンガ人の選手が在籍しており、体格では比較にならなかったが気迫だけは負けていなかったと思う。

相手にリードされていても、あきらめてはいなかった。チャンスさえあればトライを決めてやると心に誓っていたその時、チャンスは巡ってきた。相手チームのデイフェンスを破り抜け出すことができた。ゴールラインの手前まで走り抜ければトライできると思ったが、目の端にトンガ人の選手が入った。追いつかれればタックルされると思い、必死で走った。追いつかれてもフェイントで交わそうと思ったが、追いつかれて倒されてしまった。試合の結果は、大差で負けはしたが、岡山県内の普通科高校から花園出場

ありません）の話で、ギャグは一切封印した王道の台本が完成。

あとは劇のキャスト決め、セリフ覚え、合わせ。裏方にまわった人たちは、大道具・小道具作り・応援幕作成（劇からインスパイアされた内容のものを描きます）に力を合わせました。

それと同時進行で、体育の部の応援パフォーマンスに有志で出ることにした僕は、たて割りチームごとのパフォーマンスのために使う曲をみんなと決めたら、パフォーマンスの振り合わせのために朝練・夕練に頑張りました。

文化の部、当日、初めての大道具・小道具を実際に使ったので本番なので上手くいくかの不安もありましたが、美術工芸系のクラスなので、道具作りは完璧で、演技の方も、個々の練習成果もあり、笑いを誘う場面では、会場から笑いが出て、大成功。

とりたかった文化の部第一位と応援幕第一位のダブル受賞となりました。

体育の部は、雨の心配もあり、応援パフォーマンスのプログラムを練り上げることになり、衣装に着替える時間が短くて、どのチームも大忙しでしたが、パフォーマンスはすばらしいものでした。

八正会の皆様、三年間、たくさんの奨学金や、様々な経

験をさせていただき、ありがとうございました。

これらの経験をこれからの大学生活にも生かして、充実した生活を送りたいと思います。

大学で挑戦したいこと

岡山城東高校三年 濱 田 実 苗

私が大学生になったら挑戦したいことは、読書です。お恥ずかしいことに、私は高校生活の中で自ら進んで本を読むということがほとんどありませんでした。国語の成績はそこまで悪くなかったのですが、なんとなく国語に苦手意識を抱いていたのは、そのことが原因だったのかもしれない。

どんなジャンルの本を読みたいのかというと、まず小説です。最近の作家さんが書かれた作品はもちろんですが、夏目漱石や芥川龍之介など、大正から昭和にかけて言わずと知れた文豪たちの作品を読みたいと思っています。

次に読みたいのは、ピンポイントなのですが、池上彰さんのニュース解説本です。私は日頃からあまり経済などに

ついて興味を持つことがなかったのですが、池上さんの書籍をきっかけとして、そういった分野にも関心を寄せ、自分の意見を持てるようになっていたいと思っています。

その他にも、色々なことについて書かれた本があると思うので、食わず嫌いをせず、どんどん読んでいきたいです。そして、これから先の人生でずっと役立つ教養を身につけ、自分の理想とする大人に近付けたらと思います。

近況報告

津山高校二年 産 本 龍

早いもので、もうセンターまで一年を切ってしまいました。私は志望校を貫くのであれば、低くない確率で浪人生活を送ることになるので、果たしてセンター終了後の受験方式はいかなるものかと今からワクワクしております。嘘です、真面目に勉強します。できればスパッと現役で合格したいものです。

さて、皆さんご存知かどうか分かりませんが、実は津山で生徒会長をしております。公約は入試の倍率を上げるこ

とだったんですが、今のところうちの高校の倍率は低迷しており、なんと十人しか落ちないようです。平和でいいですね。いやはや、物事とはそう上手くいかないみたいですね。オープンスクールは結構力を入れたつもりだったんですが。まあそれはよいとして、先日学年主任に、送辞をしてほしいと頼まれました。毎年副会長が送辞をしていたのですが、例年形式的になっている上、今年の副会長が、片方が口下手で、もう片方が保健室登校という凄惨な状況下、副会長よりは口が立つ私にポストが回ってきたということです。どうやら教師の御方々の御期待は大きいようで、我々が親愛なる同志主任からは「ええ卒業式にしような！」というお言葉をいただきました。正直胃が痛いですね。加えて主任は「産本はパワーアップ学習会（提出率が低い者の集い）」に出とったけど、やっぱり代表としてそういうところも直していかなといけんよな。」と付け加えられまして、胃が痛いどころか、一年も沈痛剤を欲している次第です。

先日常備薬のマクスルト（片頭痛用の薬）も切れまして、また処方してもらわねばなりません。そういうわけで、勉強については去年の二倍ほど頑張れていると思います。しかし自分は理数科で、課題研究班のリーダーかつ唯一のパソコン係であるため、放課後はほとんど発表会の準備と生徒会活動で潰れてしまい、かれこれ三ヵ月ほどともに弓

を引いていません。笑いごとではありませんが、全て片付いたら、最後の大会まで皆勤で頑張るつもりです。

よくわからない話になりましたが、最近少し大人になったような気がします。以前、高校三年間は最も人格が変化する期間だと聞いたことがあります、その通りです。変わった内で良い部分といえば、全然キレなくなったことですかね。その分陰口を言うようになってしまいました。合わない人とまで無理に仲良くすることはないと思います。相変わらず数学の難問はからつきですが、まずは基礎から、一年かけて張り倒してやろうと思います。近況報告でした。

時は金なり

岡山操山高校二年 杉 岡 大 輝

一日、二十四時間。それ以上でもそれ以下でもない。誰しにも平等に与えられている。だが高校生の一日というのは想像を絶するほど忙しい。予習、授業、部活、復習、友達付き合いなどにかくやることが多いのだ。しかし、ど

んなに忙しくても使える時間は変わらない。

そこで私はスキマ時間の有効活用に取り組んでいる。まずは自分の生活を把握するために行動記録をとる。すると自分が思っていた以上に無駄な時間がある。その多くが行動と行動の間のスキマ時間なのだ。こうしたスキマに始めはちょっとした予定を入れて実践していく。そうすれば無理なくスキマ時間を減らすことができる。

私は帰宅してから夕食までの時間、起床から朝食までの時間の二つのスキマが見つかった。まずはその二つに古文の予習や英単語学習など比較的簡単な勉強をすることにした。すると今まで授業前に詰めこんでいた英単語は小テストに楽に合格できるほど覚えることができるようになり、古文は予習を完璧にすることで内容理解を深くまで進められるようになった。スキマ時間の活用が効率のよい勉強に結びついたと言える。

私はこれからもスキマを探していき、より難しい学習も取り入れようと考えている。限られた時間を最大限に利用する。これが忙しい私たち高校生に必要なことだろう。ぜひ皆さんにもスキマ時間の活用をしていただきたい。

く達成できるのはまだ先の話の気がするが…。部活も同様であと半年経つと引退となる。ちなみに実感はない。勉強も部活も悔いの残らないようにしたいという気持ちはある。だから必ずこの目標を達成して笑顔の多い一年にしたい。

グローバルを感じるとき

岡山城東高校二年 青山公士

近頃、日常でよく見かける物や出来事にグローバルを感じることがありませんか。一般の人でもよく遭遇すると思いますが、実は私はSGH指定校に通っています。SGHとはスーパーグローバルハイスクールの略で、国際的に活躍できるグローバル・リーダーの育成を図るという目的をもった高校です。この高校に通っていることもあってか、私は頻繁にグローバルを感じます。

先日、私はその高校の英語合宿に参加しました。英語しかしゃべってはいけない合宿です。この合宿には九人のALITの方々が参加されていました。それぞれいろんな国の出身で、それぞれの国の文化などを教えてくれました。彼

勝負の年

岡山一宮高校二年 小竹守花 恵

新年が始まりあと数ヶ月もすると私たちは最上級生となり受験生となる。そうなってくるとやはり「受験」だとか「勉強」だとかそういった文字をよく見るようになった気がする。学校の先生も「一月になるとみんなにかしら行動に出るようになった。」と言っていた。みんなもう受験モードへ入ろうとしているのだ。新年早々友達が「今年は勝負の年だね。」と言った。その子からしてみると当たり前であり何気ない一言にすぎなかっただろうと思う。しかし私にはその言葉がなぜか強く印象に残った。

私はそのような言葉を見つつ、勉強しなければとは思うもののなかなか行動にうつすことができない。やる気も出なければ集中もできないのだ。いま書いていてだめだなあ…としみじみと感じている。というのも私には受験というもの漠然としていて、自分がもうすぐ受験生になるのだという実感がない。おそらくそこが原因であろう。だから私は今年の目標として「自覚をもつ。今年は勝負の年！」というものを立てた。まだそれは達成できてないしおそら

らはとても積極的に話しかけてくれて、とても楽しい時間を過ごせました。それと同時に積極性はグローバル人材には必要不可欠だと思いました。

また最近では、電車を待っているときに駅のホームで外国人に

「〽駅にはどうやっていきますか。」

と聞かれたり、街中を歩いていると、

「〽への道を教えてください。」

など聞かれたりすることがあります。グローバル化している現代の社会では最低限この質問ぐらいには英語で返せるように誰しもがするべきだと思います。

このように、現代の社会はグローバル人材を求めています。これからももつともつと英語が必要になってくる機会が増えていくことでしょう。そのために外国の文化を知ること、人見知りをせずに積極性をもつこと、英語能力の上昇が必要だと思います。英語を身に付けることは将来どんな職業につこうと必ずどこかで役に立つと思います。他言語を学ぶことはとても難しいことだけれど、学ぶことで世界を知ることができると思います。

高校二年生の今

岡山操山高校二年 佐伯 吏咲子

「誰にでも与えるものがある。」

この言葉は、部屋の壁に掛けている名言集の日めくりカレンダーを、なんとなくめくった時に見たものだ。この言葉に込められた意味は、「人は誰でも、かけがえのない特質をもっている。他のために尽くしたい。自分には与えるものが何もない、ということは決してない。」というものであった。これは、私の心にとっても響いた。

高校入学後すぐに、勉強量の多さに驚き高校生の忙しさを感じ、三年間やっていけるかという不安を募らせていた私。しかし、勉強と部活と遊びの両立を必死にやっていくうちにその忙しさにも慣れていた。そしてあつという間に月日は経ち、気づけば二年生の三学期になっていた。先生や学校での決まり文句である、「三年生0学期Ⅱ受験生」になったのだ。最近では、自分の思うように成績が振るわず、受験や進学に対してマイナス感情しか出ない、という時期もあった。それでも、学校では「もう受験生なのだから」とはつばをかけられる事が増え、周りも勉強ムードになり

わないのですが（そういう学校を選びましたし）、一〇八では済まない煩惱の数々に悩まされ、多くの時間を浪費してしまっていること、慚愧に堪えません。

とは言っても、人間その気になれば変われるものだと思います。僕は夏のある模試で惨敗しました。初めて三年生浪人生も受ける模試に挑戦した時です。そして、これから自分が戦う人たちと比べて、思いました。このままでは危ないと。見たこともない自分の偏差値に思わず笑ってしまっ程でした。

それからもつとガリ勉になったのですが、やってみると割と楽しいのです。集中すれば余計なことを考えなくて良いので。

受験本番まで後一年。泣いても笑ってもこの一年が全てなので、当たっても砕けない耐久力を身につけて、来年の春には笑えるように過ごしたいと思います。

最後になりましたが、いつも温かいご支援と多額の奨学金をありがとうございます。この恩を忘れることなく、日々精進します。

つつある中で、前向きになれない自分だけが置いていかれているような気がして息苦しかった。

そんな時に、なんとなく見た日めくりカレンダーのこの言葉が私の心に染みたのだ。頑張りが、気合いの入りが、ペースが、皆と違っていてもそれでいい。自分らしく頑張ればいいのだ。そう思えた瞬間に、とても気持ちが楽になった。

あと一年となった高校生活も、自分らしく頑張って、自分にしかない特性で他人に尽くして、悔いのない高校三年生にしていきたい。

三年生0学期

岡山朝日高校二年 植本圭祐

気が付くともう二年生の学年末です。先日行われたセンター試験のことを考えると、残された時間は三六五日以下なのです。まだ一年、いや、あと一年です。来年の今頃の自分はどうなっているのだろうという不安と期待でいっぱいです。所謂『青年時代』を勉強に費やしていることは構

読書感想文

岡山東商業高校二年 三宅竜矢

今回読んだ本は、前回書いた同ゲームのブレイブフロンティアのストーリーを書いた、遺志を継ぐ者です。この本は、ある日、女召喚師レダは怪しい男ベルツから声を掛けられる。さらにアクラス召喚院・グラデンスからも同様の依頼を受けレダは単身で魔神の蔓延する異界・イシュグリアで、三十二年前に壊滅したという先遣隊の「記憶のカケラ」を探すことに。先遣隊はいかにして結成され、任務に挑んだのか。というのがあらすじです。

この本は本編のゲームの第二章のストーリーの一つで先遣隊のメンバーはグリフ、アイリス、リベラ、ロア、クラント、カフカ、ミーフアの七人でこの七人はそれぞれ魔人を討伐する隊でその第四十一までの隊長を集めた精鋭部隊です。第一〜三の隊長は召喚老と呼ばれアクラス召喚院のトップの人です。

僕はこの話はゲームの中でのストーリーではでてこなかった細かいところも、しっかりかかれており、すごくおもしろかったです。この七人の中一人は現段階のレアリティ

の一番上の幻創進化というレアリティであり一つ下の☆七のIF進化ということになっていて性能に半減、回復、属性付与と、いろいろな役を持ち使いやすいユニットの一つです。さらに被ダメ半減は特性強化をすることで、二ターンに延ばせるという反そくなみの特性強化をもっていてすごく強いです。

この本をよんで、ストーリー、クエストなどでわからなかった七人の先遣隊の最後の細かいところなどはあまり書かれていなく残念だったのが、この本に細かく書かれており最後までたのしめる内容でした。

この本をよみいつもよりもっとたのしくプレイブフロンティアをプレイできるようになりました。

三年0学期

倉敷古城池高校二年 小 西 菖

新年がスタートしてもう一カ月が経とうとしている。そんな中、学校の先生は「三年0学期」という言葉を毎日のように私たち生徒に言っている。「三年0学期」という言

葉を聞きたびに、もう二年生が終わるんだなと実感する。

焦りも感じ始めた。一月になってから模試が多くなり、その出きばえに度々がっかりする。いつも学校から帰ると疲れと眠さで予習しかできていない。そろそろやばいかなと内心では思っているものの行動にうつすことができない。しかし、いつまでもそんなことではいけないので「三年0学期」ということを心に置いて少しずつでも頑張っていこうと思う。平日の勉強時間を普段より増やしていったり、空いている時間を上手く使えるようになっていきたい。そして、来年自分が行きたい学校に行けるよう、後悔しないように今から力をつけていきたいと思う。

去年の振り返りと今年の抱負

岡山朝日高校一年 武 田 宗 真

もうすぐ一年生が終わるので、去年の四月から今までを振り返ってみようと思います。

四月、朝日に入学。宿題は少ないと聞いていたが、そんなことは無かった。

五月、たぶん一日LHRがあった月。僕のクラスは蒜山に行った。

六月、特筆することはない。

七月、二十日頃まで授業があり、そこからは補習という名の授業が二十八日まであった。二十九から三十一日まで、毎年一年生が行く富士登山に参加した。無事登頂できた。

八月、二週間だけ夏休み。でも、宿題やら何やらで休みなんてなかった。後半の二週間はまた授業があった。

九月、朝日祭があった。三日目は「また地獄が始まってしまふ。」とブルーになった。

十、十一月、特筆することはない。

十二月、授業や補習が二十八日まであった。

一月、百人一首大会があった。冬休みに全然覚えていなかったので残念な結果になった。国語の課題考査はもちろん追試に引っ掛かったので、結局五十首ぐらいは覚えた。

去年の一年は本当に時間が経つのが早かった気がします。大人になると時間が経つのが早くなると聞きますが、僕も着実に大人への階段を上がっているのだと感じました。

さて、今年の抱負を発表します。

人生を勉強に捧げる

具体的には、ご飯を食べたり、トイレに行ったり、お風呂に入ったりという行為を全て、勉強の合間に行うという

感覚にします。またこれは受験勉強をするということと同値です。

一年後、自分をどこまで高められるか分かりませんが、自分の限界を越えていきたいです。

一年生のまとめ

倉敷青陵高校一年 井 上 唯

高校生になってもう一年が終わろうとしています。去年、この倉敷青陵高校に入学するために頑張っていた事を思い出すとともに懐かしくなります。今回ここでは、高校一年生を勉強面と部活動の面の両面から振り返っていこうと思います。

まず、勉強面では、内容の濃い授業と予習・復習のサイクルをただひたすらこなしていく日々でした。授業は教えて下さるどの先生も個性豊かで本当におもしろいし、私自身に学力を高めようという向上心をいつも与えてくれます。また、家庭でする予習と復習は高校生になるまであまりする習慣がなく、大変苦労しました。今でも、「やりたいこ

と」「やらなければならないこと」が互いにつつかり合
ってけんかになることもあります。でも私は目指している
大学があるので、二年生ではこのサイクルをより強固なも
のとし、テストにおいても課題においても努力を惜しむこ
となく、丁寧、三年後笑っていられるように頑張ってい
こうと思います。

次に、部活動の面では、私の所属している書道部につ
いて書こうと思います。私の学校の書道部は、文化部であ
るにも関わらず、とても活動的です。夏休みには夏休みあ
けに開催された青陵祭の書道パフォーマンスに向けて二泊三
日の合宿を行いました。当日は、多くの人に見守られ、み
んなで練習の成果を発揮しました。最優秀もいただき今と
なつては何にも変えがたい思い出です。また、青陵祭が終
わった頃から、「高校生が語る木堂の書」という展覧会の
準備にも取りかかり始めました。木堂というのは犬養毅の
ことです。犬養毅は五・一五事件でも有名ですが、書が上
手であることもとても有名でした。この展覧会では木堂の
書の作品を見て、その作品の解説をしました。木堂の書の中
には倉敷青陵高校のために書かれたものもあり、興味深い
ものが数多くあります。本番当日は多くの方が足を運ん
で下さり、書道の魅力を伝える良い機会となりました。

最後に、毎月多額の奨学金をありがとうございます。お

を学んだということである。僕が後ろに手を組んで接客し
ていると、ディレクターの方に「手を前に組んで接客して
下さい。」と言われた。なぜかと聞くとディレクターの方
はこう答えられた。「外国の方からすると後ろに手を組む
と、銃を持っていると誤解される人がいらっしやいますか
ら。」誰が来られるかわからないから細部まで気をつかわ
なければならぬ。なるほどなと思った。次に二つ目は、
責任を負うことの大変さを学んだということである。お金
を扱うレジ係や、パターゴルフの作品で危険なことをして
いないか確認する係など、責任ある仕事を任されることも
多々あった。自分がミスを負うと、芸術交流全体に迷惑が
かかってしまう。責任を負うということは、自分だけのせ
いにはできないということが分かった。最後に三つ目は、
英語は習うだけでは使えないということである。レジ係を
しているとき、外国の方に対して「ここに入るには、チケ
ットが必要です。」と言わなければならない場合で、頭の中
に“I have to...”と言わないといけないのは分かっ
ても話すことができなかった。つまり、習うと同時に実践
する必要があるとわかった。

今回の経験を通して、前回のやまびこの問い「自分の夢
中になりたいもの探し」に答えをだすとすれば、三年後再
び開催される予定の「岡山芸術交流」までに、思いやり、

陰様で充実した高校生活を送ることができています。これ
からもよろしくお願いします。

ゴリラの冒険

倉敷高校一年 日 下 侑 希

昨年十月から十一月にかけて開催された「岡山芸術交
流」において、サポートスタッフをさせていただく機会が
あった。今回の芸術交流は、現代アートと岡山の融合をテ
ーマにしていたようだ。現に、桃太郎の現在の姿を特殊器
台と絡めて追及した作品、タコをザビエル一行（聖教徒）
と同時に日本にやってきた悪魔であるということを主張し
た作品など、とても興味深い作品があったが、僕にはさっ
ぱりであった。そういった点で考えると僕は損しているの
かもしれないが、それ以外の所でそれ以上の得を受け取っ
たので、僕にとってとても有意義な芸術交流になったと思
う。

その得というのは、大きく分けて三つある。

まず一つ目は、細部にも思いやりを求める精神の大切さ

責任、語学の三つをしっかりと学習することであろう。

一年間を振り返って

岡山芳泉高校一年 安 井 絵里果

「高校一年生」という一年間は本当にあつという間だっ
た。十六年間、生きてきて一番充実していたのではないか
と思う。中学一年の頃から、芳泉高校に通っていた姉の
姿を見てこの高校に行きたい！と思っていた私にとって、
『芳泉高校合格』というのは死ぬほど嬉しい出来事だった。
普段はあまりはしゃがない私でさえ、とびはねて喜んだの
を覚えている。

私はこの一年間でとても大切な二つのことを学んだ。

一つ目は、何でも全力で取り組む人はすごい人だとい
い、ということだ。そんなこと知ってるわと思う人もい
るだろうが、芳泉高校に在るとこのことをしみじみと感じ
せられる。芳泉高校生は部活で結果を出してるし、勉強も
できる。もとがいんだろうと思っていたが、そんなん少
ししかないなくてほとんどの人は寝る間も惜しんで勉強をし、

休日遊びたい気持ちをおさえて部活動に励んでいる、そんな何事にも全力な人達ばかりだ。

二つ目は、友達ほどこいいものはない」ということだ。私は小学生の頃、友達といざこざがあり、中学生の頃はあまり部活の仲間やクラスメイトと深く関わることはなかった。でも変わらなくちゃと思い、高校に入ってから色んな人達と関わるようにしてきた。するとどうだ友達ってとってもいいものじゃないかと思えてきた。悲しいときは共に悲しみ、嬉しいときは共に喜び、感情を共有するのってとても良いことだなと思えた。今、私の周りにいる人達がいなかったら、私の「高校一年生」はこんなにも充実していなかった。だから私はみんなに感謝の気持ちを伝えたい。

「ありがとう！」

チアの練習

作陽高校一年 濱 田 祐佳里

私の通っている高校の女子サッカー部は、「第二十五回全日本高等学校女子サッカー選手権大会」に出場すること

二〇一七年になって

岡山一宮高校一年 高 橋 大 地

新しい年になって高校は三学期に入り、一年生として学校に行く日もあと一ヶ月半ほどになりました。今年は二年生になる年でもあり、今まで部活動や文化祭の時などいろんな面で先輩を頼るばかりしていた自分が四月には入ってくる一年生の人々にちゃんと頼ってもらえる先輩になれるかという不安が少しあります。でも不安だけではなく嬉しい気持ちもあります。いい先輩だと思われるよう努力したいと思っています。

もうすぐ一宮高校の理数科は特別入試があります。理数科に来たいと思っている人達は受験を間近にひかえて、焦りや不安などいろいろ感じている頃だと思います。僕は去年の今頃どんなだったかを少し振り返ってみようと思います。そもそもなぜ一宮高校理数科に入ろうと決めたのかですが、僕は小さい頃から科学のイベントに参加したりなどもあり、理科にとっても興味を持っていました。また兄が一宮高校に入学したのを見て自分も一宮高校に入りたいと思っていました。そして中学校に入学した頃僕はそこそこ勉

になりました。その応援に、先生に誘われ私もチアガールとして参加することになりました。

まったく踊ったことのない私は、先輩たちに一から教えてもらい二十曲の曲をリズムに合わせて振りつけをすべて覚えなければいけませんでした。しかし、なかなか覚えられない自分にイラだつこともありましたが、冬休みの間、毎日のように学校へ行き、友達と一緒に何度も繰り返し練習しました。家でも先輩達が撮ってくれた動画を見ながら練習し、なんとか踊れるようになりました。練習最後の日には衣装に着がえ、吹奏楽とも合わせ通し練習をしました。練習がとても楽しく、本番が楽しみになりました。

私は初戦と二回戦の日、東京に住む姉の所へ行く予定がありました。東京で買い物をしている最中でも試合のことが気になり、携帯のリアルタイムでずっと見ていました。一回戦目は勝ち、二回戦目へ進みました。しかし二回戦目はなかなか得点がいらず三回戦目へ進んでくれることをずっと願っていたのですが負けてしまいました。

結果、私がしたチアの練習は無駄になってしまったが、きっと来年は優勝してくれることを願って夏もチアとして応援したいと思う。試合にはいけなかったけど楽しい冬の思い出になりました。

強ができたので、最初の考査ではいい結果でこのままいけば簡単に一宮高校に入れると思い、全然勉強もせず遊ぶばかりしていました。中学二年生になった時には徐々に成績も下がっていき、その頃からもう一宮高校に行きたいと思っていた気持ちも無くなってしまい、いろいろなことから逃げて遊ぶばかりをくり返していました。中学三年生になった時、ある先生が担任になってその先生には姉もお世話になっていた先生で、そのこともあってか僕のことをごく気にかけてくれました。でもその先生の気持ちにも素直に答えられず反抗ばかりしてしまいました。それでもその先生は僕を見捨てずちゃんと叱ってくれました。そして周りの先生達も僕のことを気にかけてくれていろんな先生が僕の話真剣に聞いてくれました。特にその時の学年主任の先生は本当によく僕のことを見てくれていました。例えば担任の先生に叱られた時には僕のところに来て話を聞いてくれました。そしてたくさん先生の期待が僕に期待もしてくれていました。その先生達の期待を裏切りたくないという気持ちが出てきて、一宮高校を受験しようかなと思って迷っている時に、学年主任だった先生に背中を押されがんばろうという気持ちになりました。それがもう一度一宮高校に行こうと思ったきっかけです。この気持ちになるまでにすごい時間がかかり家族にもたくさん迷惑をか

けてしまいました。そして去年の今頃は本気で勉強をがんばり特別入試には間に合わなかったけどなんとか一般入試で合格することができ、今こうして一宮高校の生徒として生活ができているんだなと思います。それは全て自分を支えてくれた家族や先生達のおかげだと今本当に思っています。そして支えてくれた人達に感謝をしてこれから先もつとがんばっていかないといいなと思いました。

何をがんばるかですが次に僕が一番がんばらないといけないのは、大学だと思います。僕は大学は岡山には残らず外の県に出て新しい経験をしたいと思っています。何か物をつくるのが昔から好きなので工学部に行きたいと考えています。物をつくると言ってもいろいろありますが僕が今興味を持っているのは、家をつくること、それから飛行機をつくることです。自分の家を自分で建てたいというちよつとした夢があるので建築関係もおもしろそうであるし、空を飛ぶものを実際に自分の手で作るのもいいなと思っています。

このような目標に少しでも近づき実現させるためにもしつかりがんばりたいと思います。

一年生の思い出

美作高校一年 久保田 実 歩

高校一年生は思い出が沢山あって、時間が早くたちました。その中でも三つ思い出があります。

まず一つ目は入学式です。初めての場所や初めての人達でとても緊張していました。私は人見知りなのでなかなか自分から話しかけませんでしたが、隣の席の人など向こうから話をしてくれたので、今沢山の友達ができたと思います。

二つ目は宿泊研修です。まだ全然仲良くなれていない時だったのでとても不安がありました。クラスの人とすぐ仲良くなることができました。カッターこぎは波にオールをとられてしまつて、とても難しかったです。行きのバスでは皆とても静かでしたが、帰りのバスでは皆仲良くなつて、学校までの道のりをずつとしゃべつて帰りました。この宿泊研修でぐつと仲良くなれたと思います。

最後に三つ目は、文化祭と体育祭です。美作高校はこの二つの行事が、二日連続であります。まずは文化祭です。一年生は売店などまだできないので、発表や展示をします。

私達のクラスでは、紙を小さく切つてウサイン＝ボルトの貼り絵をしました。一センチぐらいの紙を一枚一枚貼るのでとても時間がかかりましたが、当日沢山の人が見にきてくれたので、よかったです。そして私は生徒会として、クロージングセレモニーでダンスをしました。夏休みの間ずっと練習をしていましたが、上手くできるかとても不安でした。本番では練習通りできたのでよかったです。次に体育祭です。私は種目には出場しなかったので、応援だけでしたがとても楽しかったです。三年生のリレーでは、スタートと同時に全員がこけたり、障害物競走の飴玉探しでは、皆わざと多めに小麦粉をつけていたので、とてもおもしろかったです。最後の全員参加のフォークダンスでは、皆楽しくおどつて、アンコールもできました。

高校一年生は思い出が沢山あって、とても楽しく過ごすることができました。二年生でも沢山思い出がきたらうれしいです。

日常生活のなかの英語

津山高専一年 佐 藤 海 斗

僕の通う津山高専は、今年度から「グローバル高専」に指定されたらしい。英語教育に長けた教員を積極的に雇っているし、海外留学の斡旋も盛んに行っている。

僕は英語が苦手で、日常生活で英語を使うことはほとんどない。グローバル高専への指定もどこか他人事のごとく捉えていたが、先日英語力をつけることの大切さを実感させられる出来事があった。

僕は世界史が好きなので、よく世界史関連の本を漁る。いろいろと本を探しているとき、ある一冊の本に出合った。『令嬢ジェシカの反逆』というタイトルの本だった。著者はジェシカ・ミットフォード、要するに自伝である。ジェシカはユニティ・ミットフォード（ヒトラーの愛人）の妹で、熱心なコミュニストだったと言われている。ファシストでヒトラーの愛人の姉と、コミュニストの妹という関係性がいかにも面白そうだった。ぜひ読んでみようと思ひ詳細を調べたところ、なんと『令嬢ジェシカの反逆』の価格は二万円以上するらしい。とても一高専生がやすや

すと手を出せる価格ではない。『令嬢ジェシカの反逆』は一九六六年に出版されたもので、以降一切再版されていないため、まったく出回っていないようだった。

ところが、『令嬢ジェシカの反逆』には『Hons and Rebels』という原著があり、原著のほうは千円程度で購入できるらしい。英語で書かれた書籍をスラスラと読むだけの力があれば、高価な『令嬢ジェシカの反逆』ではなく安価な『Hons and Rebels』を読めるのに……と、悔しい気持ちになった。

調べてみると、『令嬢ジェシカの反逆』に限らず、原著のほうがはるかに安価な書籍はたくさんあるらしい。

『令嬢ジェシカの反逆』の一件から学んだことは、「英語が使えると、より多くの情報を、より安価に入手でき、より豊かな日常生活を送れる」ということだ。

英語が使えると、人生をより豊かに、そしてスマートにできる。英語とは無縁だと決め込んでいた過去の自分に、突きつけてやりたい事実である。

く自己ベストを出すことができたのでとても良かったなと思います。

年が明けた今の部活のメニューは冬季練で毎日きつくて大変ですが憧れの舞台に立つために去年学んだことを活かして頑張っていこうと思います。

最近思うこと

岡山朝日高校一年 井上 彪馬

三学期も残すところあと二ヶ月もありません。時が経つのは本当に早いもので、高校に入学したのがつい最近のことのように思えます。

さて、この一年を過ごした率直な感想を言うと、「やばい」です。この「やばい」という言葉はとても便利で、元々ある「具合が悪い」という意味もそうですが、最近では、「凄い」という意味が派生して、肯定・否定問わず使われています。「やばい」ですね。

今回僕が使っている「やばい」は「具合が悪い」方の「やばい」です。この一年、正直あまり勉強をしませんで

一年間をふりかえって

岡山工業高校一年 小林 桜子

二〇一六年をふりかえるとたくさんの事を経験できた一年だったなと思います。その中でも一番力をいれてできたことは陸上部の活動だと思いました。なので、部活動の話をしたいと思います。

中学の時からやっていた陸上競技でしたが高校の練習をしてみると最初の頃は中学の時とは内容もぜんぜん違い、慣れるまでが大変でした。また、岡山工業高校の陸上部は女子が三人しかいないのでほとんど男子ということもあり練習では男子のスピードについていけれず大変なときもありました。しかし、そのような辛いことだけではありませんでした。今年はインターハイが岡山で開催され、補助員として大会に関わることができました。また、岡山工業高校の先輩方が出場していたので間近に全国の舞台で戦っている先輩や仲間を見て応援をすることができました。このインターハイという憧れの場所に出場した方たちと毎日いっしょに練習できているんだなと思うと、とても幸せなことだなと思いました。補助員だけではなく去年は大会で多

した。その結果、あらゆるテストで悲惨な結果をとってしまい、悪い点をとつても、あまり気にならなくなりつつあります。これは非常に「やばい」です。

過ぎてしまった時間はどうにもできません。そのどうにもならない時間を、僕はただならと過ごしていました。「いつからこんなふうになってしまったのだろう」と過去の自分を考えるくらいなら、今の自分を変える努力をしろ、と常に自分に言いきかせて、これからは頑張ろうと思います。

一年を振り返って

倉敷中央高校一年 片山 歩

高校に入学してからもう一年が過ぎようとしています。もう二月…と思うと、とても早く感じます。中学校の三年間と比べると高校の一年間は同じように感じます。今回は、この一年を振り返ってみようと思います。

四月。不安がたくさんで入学しました。知っている人がほとんどいない中、自分は大丈夫なのかと思いました。み

なさんも知っているとありますが私の高校はほぼ女子です。そして私のクラスには男子が一人もいません。女子だけの生活は不安ながらもとても楽しみでした。今では、この高校で良かったと改めて思います。

夏の季節になると部活がたくさんありました。私は、陸上部に所属しています。シーズンに入るとみんな本気で一本一本集中していて、質の高い練習ができました。今年のインターハイは岡山県でした。私の力ではまだまだ手の届かない舞台でした。夢のような舞台で戦っている先輩方を見ることができ、私もこの舞台に立ちたいと思いました。

秋の季節はとても嬉しいことがありました。秋の総体で中国大会にできることができたことです。記録は納得できなかったけれども上の舞台に行くことができその舞台でも上位に入賞することができたので、とても心に残っています。秋は白ゆり祭もありました。白ゆり祭は文化の部と体育の部があります。私は特に体育の部が楽しかったです。私の学校は色々な学科があります。専攻科の先輩方も参加するのでとても盛り上がります。どの学年も混ざって競うのでとても楽しかったです。

冬の季節は合同練習が多かったです。県外の学校の方と一緒に練習することができるので自分はまだだと実感させられます。合同練習をすることでコミュニケーション

なぜおこなわれたのだろうか。そして、どのような結果をもたらしたのだろうか。原爆投下に関するいくつかの意見や僕の思いを書いていきたいと思っています。

ワシントンにあるスミソニアン航空宇宙博物館の原爆展（一九九五～一九九八）をめぐり、被害者側としての日本と、軍国主義に対する自由の勝利という愛国心を訴えるアメリカとの間の歴史観の相違が明らかになりました。肯定論としては、原爆投下による戦争終結が早まり多くの命が救われたとありました。否定論は、日本の降伏を早めるなら原爆を日本近海に投下し威力を示すだけで十分であり、広島・長崎合わせて約三十万人の一般市民を殺したのは残虐行為であるということでした。アメリカの肯定論は、原爆で日本に死者がもたらされることを想定した上でのものであり非人道的だと感じました。かつて真珠湾を奇襲し戦争を始めたのは日本であり、日本軍の植民地への侵略や残虐行為を考えれば原爆投下は当然の結果だったのかと考えてしまいます。

戦争はどちらかが悪いとかではなく両方に重い責任があると思います。その責任はいつか消えるものではなく国民全体、国民一人一人が戦争のことを決して忘れず戦争はダメだという気持ちを持ち続けることが大切だと思います。

僕は世界中から戦争というものが無くなることを心から

もとることができ友達もたくさんできました。まだ冬季練習は続くので頑張ろうと思います。

この一年はたくさん学ぶことができました。次は二年生になるのでしっかりと自分のすべきことをしっかりと見つけようと思います。今年も夢を叶えるために勉強も部活も一生懸命します。今年もよろしく願います。

「平和」な世界をめざして

美作高校一年 津 本 宥 海

僕は小学校の修学旅行で行った広島平和記念資料館がとても衝撃的で今でもはつきりと覚えています。原爆投下までの広島市の歴史や原爆投下の歴史的背景に関する展示がありました。熱線で全身の皮膚を焼けただれさせながら炎の中をさまよう被爆者の等身大のジオラマは口では言えぬ悲惨な光景でした。黒焦げの弁当箱も原爆の恐ろしさを物語っていました。

アメリカ合衆国は、第二次世界大戦末期の一九四五年八月に、原子爆弾を広島と長崎に投下しました。原爆投下は

願っています。

時間の使い方

就実高校一年 上 原 志 保

毎日毎日、早く休日になってほしいと思うながら学校に行っていたけれど、いざ冬休みになると、早く学校に行きたいと思って毎日過ごしています。

早いもので、もう新年が明けました。今はこれまでの生活と比べて、比較的ゆっくりしています。十月頃は定期考査や模試、それに学校の行事があり、慌ただしかったので、一日の時間がもつと長かったらいいのと思っていた。その頃と今とでは、同じ一日を過ごしているのに全く違う様に感じます。

冬休みは、学校に行っていない時間。自分で考えて過ごす時間が多いです。そのため、時間を無駄にってしまう日もあります。そんな日は大抵がお昼まで寝ていたり、携帯を使っています。

残りあと二年。自分がセンター試験を受けて、大学受験

をするまで残り二年となりました。そう考えると、この二年間の内に自分がしなければいけない勉強はまだたくさんあり、時間を無駄にしている場合ではないのです。そうしないために、自分の行動を見直すべきです。具体的には家での携帯の使用時間を決めて、生活リズムを整えます。そうすることで今よりも、もっと効率よく過ごせると思います。

このようにして、限られた時間を有効に使って過ごしていきたいです。

部活動について

就実高校一年 植 木 龍 翔

去年は高校入学の年だった。もちろん高校に入学しても大好きな陸上部に入学するつもりだった。就実は元女子校だったということもあり自分の今のタイムで通用すると思っていたが、全然だった。練習は中学の何倍もきつく最初はなかなかついて行けなかった。だが、ライバルは練習をこなしている。負けてたまるかと思い四月はがむしゃらに

なるために練習を一生懸命頑張っている最中だ。

この冬季を乗り越えたと新シーズンがまっている。先輩方が成しとげなかったリレーでインターハイ出場といった目標を達成するためまた個人でも百メートルと二百メートルの二棒をとるために必死で練習をがんばっているところだ。

去年一年は先輩方にいろいろ教わる一年だった陸上の技術はもちろん礼儀についても教わった。先輩方に教わったことを今年入って来る後輩たちに教えていきたいです。高校でも陸上を続けて良かったと思っている。あと一年半きつい練習を乗り越え誰にも文句を言わせないランナーになる。そして就実陸上部の名をより知らしめる。

感謝

岡山芳泉高校一年 笠 富 花

今年の十六歳の誕生日に私が強く思ったのは、親への感謝です。高校に入学して、初めての誕生日は今までよりもたくさんの人に祝ってもらえました。

頑張った。その結果五月の選手権ではリレーメンバーの控え選手になれた。うれしかったが満足はしていなかった。いつかレギュラーメンバーとなって走るという決意が固まった。先輩方は中国大会出場という結果でした。実際にスタンドで見えていて鳥肌がたった。そしてインターハイに向けて練習を頑張っていたが中国大会予選落ちだった。そこで先輩方は引退となる。二年生一年生新体制の部活になった。ここで顧問の先生に言われた言葉が胸にささった。「先輩方に感謝の気持ちを伝えたいなら結果を残せ。」と言われました。先輩方が引退しても自分たちががんばっていますと言うところを見せるため練習を頑張ろうと思った。夏は、暑い中きつい練習ばかりだったけど速くなるための近道だと思って頑張った。

そして、夏が終わり新人戦の季節になった。私は四百メートル、四メートルハードル、四×百メートルリレーに出場した。リレーではいい走りが出来たが他二種目は、まだまだだった。新人戦が終わると冬季メニユーにうつる。はじめての冬季練ということもありきつすぎではじめは逃げたいと思った。でも自分の好きなアニメのキャラクターが一度逃げると癖になりそうだという言葉を言っていたのを思い出して逃げずにがんばろうと思った。

そして冬季練は続いて行き今もなお冬季練習中だ。速く

LINEやTwitterなどお祝いメッセージの通知が一日中きていたり、学校の昼休みにクラッカーをもってプレゼントを用意してくれて仲のいい子を中心にクラスの大半の子がお祝いしてくれました。その日は廊下ですれ違うたびにたくさんの人に「誕生日おめでとう」と言ってもらえました。部活が終わった後も部員の皆がお菓子をもってハッピーバースデーの歌を歌ってお祝いしてくれました。最後に、家に帰ると中学校の頃に同じ部活で頑張ってきた六人組の皆が突然家に来てお祝いしてくれました。

こうやって、誕生日をふりかえってみるとこんなにも幸せなのは親のおかげだなと思いました。ちゃんと中学校に行かせてくれて、ソフトテニス部で頑張ることを応援してくれたおかげで出会えた素敵な仲間や、点数が低すぎて先生にも受からないと言われていた高校を受験することを最後まで、私を信じ応援してくれたおかげで見事合格し出会えた素敵な仲間や、文武両道をこなせる自信がなかった私の背中をそっとおしてくれたおかげで続けられたソフトテニスで出会えた素敵な仲間などたくさんのお会いの場を与えてくれました。

また、家は貧乏だから誕生日だからと言って豪華な外食もないしプレゼントもなかったけれど父は必ず美味しい料理を作ってくれるし、母は必ず手作りケーキを作ってくれ

ます。こんな暖かい家に産んでくれたことに一生で一番の感謝です。そんな親を喜ばせるために十六歳になった私は、何事にも全力で頑張る姿を見せたいと思います。

一年間を通して

岡山芳泉高校一年 栗山裕唯

私にとって、高校生活最初の一年間は、とても充実していました。

クラスの内外ともに、友人らにはとても恵まれています。部活動の先輩方も優しく明るく接してくださり、人間関係は入学当初の不安が嘘のように広まりました。

部活動では地道な努力の大切さを学ぶことができました。私は弓道部に所属していますが、部員も多く、まだまだ未熟な身では試合に出られません。けれど顧問の先生や先輩方のアドバイスのおかげで、着実に成長している実感を得られています。

しかし良いことばかりであったかと言われると、そこは頷き難いものだったかもしれません。

成長

倉敷高校一年 四野見祥子

とうとう三学期になりました。時間が経つのが早く感じます。自分が入学式を迎えてから十カ月が経とうとしています。その十カ月の中で成長したところが三つあります。

一つ目は、自分が将来したいことが見つかったことです。今まで具体的な将来の夢やしたいことが決まらなまま高校に入ったため、なんとなく日々を過ごしてきただけでした。

しかし、十一月の三者懇談のとき、担任の先生にこう言われました。「四野見さん、お祭りとか結構好きですよー？文化祭のときすごく活躍してたやん！それを生かして地域学部について活躍したらどうですか？」私も楽しいことを考えるのが好きなので自分の将来に向いていると思いました。その先、その夢に向かってがんばりたいと思います。

二つ目は、自ら新しいことに積極的に参加できるようになったことです。夏のボランティア、高校生会議、ESDカフェ、講演会、さまざまな行事にチャレンジしました。

勉強と部活動の両立を目標に掲げていたものの、忙しさを言い訳にしてしまうなど、学業から目を背けていた部分があります。

また、高校入学と同時にスマートフォンを持ち、それに集中力を削がれてしまったことも否めません。

これらのことを踏まえて、今後は「集中力」を大切にしていきたいと思います。

忙しいから勉強しないのではなく、忙しいなら限られた時間で集中して取り組む、という形で努力していきたいです。そのためにも、まずは自分の生活習慣から見直していこうと思います。楽しく真剣に取り組んでいる部活動を言い訳にしないためにも、自分なりに、懸命に努力します。

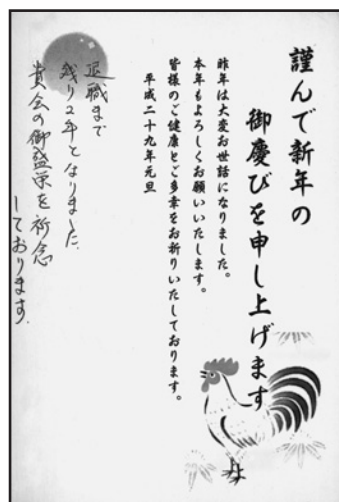
最後にはりましたが、三年生の先輩方、少ない機会、短い時間ではありましたがお世話になりました。これからの皆様のご活躍をお祈りしています。

そこで「自分の意見を主張することの大切さ」を学びました。例えば、高校生会議のとき、岡山県のいいところを中心にCM作りをしました。そのときに、同じグループの人と意見交換をしなければなりません。人に上手く伝わるように自分の意見を伝えるのは、意外と難しく感じました。なので、他校の人と交流する機会を増やし、話す経験を重ねようと思います。

さらに、もう一つ学んだことがあります。それは、嫌な仕事を自ら進んでやることです。夏のボランティアのときに、夏祭りのスタッフとして参加しました。ステージの準備、ごみの回収、お客さんの誘導…たくさん仕事があり大変でした。しかし、同じ高校の先輩が嫌な顔せず、ごみの回収をやってくれました。その先輩のことはとても尊敬しています。私もあんなふうになれたらいいな、と思います。

最後に、一学年が終わるまで残り数十日となりました。本当に時間が経つのがはやく感じます。残りの時間を大切にしたいです。そして、来年度は二年生になるので、今から目標をしっかりと考え、がんばっていききたいです。

年賀状



●昭和47年度卒 難波 弘行

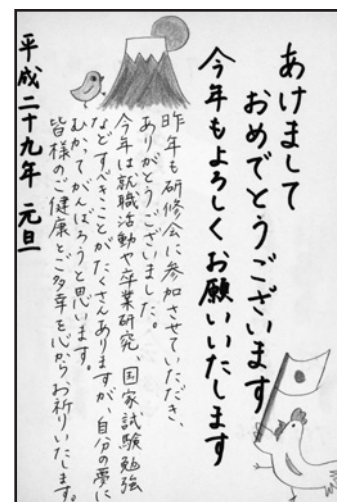


●昭和49年度卒 長田 宏

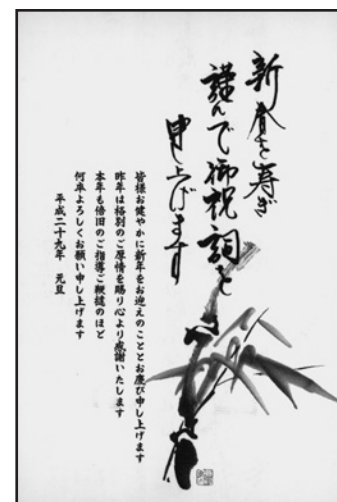


●昭和51年度卒 杉本 一世

年賀状



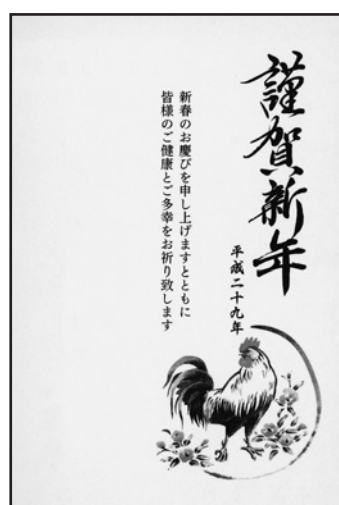
●平成24年度卒 後藤 千尋



●平成25年度卒 山磨 貴幸



●平成26年度卒 後藤 眞依



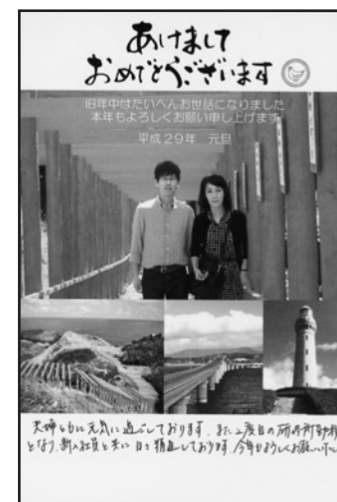
●昭和37年度卒 児子 浩



●昭和55年度卒 宮田 正美



●昭和60年度卒 垣内 顕治



●昭和62年度卒 日下 天

～ 事務局よりお願い ～

- ①会員登録がまだの方は、是非登録をお願いします。登録には、パスワードが必要です。パスワードは事務局が発行しますのでご連絡下さい。
- ②卒業や結婚、転勤等で引っ越された場合は、必ず事務局まで転居先をご連絡下さい。巻末に「住所変更連絡はがき」を添付していますのでご利用下さい。また、八正会のホームページ（<http://www.hasshoukai.or.jp/>）のお問合せ欄からメールで送っていただいても結構です。

八 正 会

検索



●平成1年度卒 松本 幸代



●平成6年度卒 宮川 由佳子

編集後記

平成29年1月15日(日)勤務校学区のウォーキング大会が、開催された。
今回は、往復約8キロのウォーキングで西大寺会陽（裸祭り）で有名な金陵山西大寺観音院にお参りすることとなった。

2年前、孫誕生の安産祈願のため私も初めて裸祭りに参加したが、端の方で見守り参加したのを思い出した。今回は、裸祭りの際に2本の宝木（しんぎ）が投下される御福窓（ごふくまど）の拝観をさせていただき、お守りも頂戴した。

香の香りがする、『御福窓登階 五福香守』には、次の文が書かれてあった。

「合掌の心で徳積めば、善人集まり笑いは絶えぬ、無病・蓄財・長寿で過ごし、晩年は眠るが如く天命成就の五福を授かる。」

五福とは、人生の五種の幸福、すなわち寿（寿命の長いこと）、富（財力の豊かなこと）、康寧（無病なこと）、好徳（徳を好むこと）、終年（天命をもって終わること）だそうで、西大寺観音院の北側には、映画やドラマの撮影現場となった通称【五福通り】も昭和のたたずまいを残している。

八正会の皆様の『五福』をお祈りしながら私もさらに精進したいものです。

【近近眼鏡をついにかけだした、Y U A】

発行責任者 落 司 量 則
発 行 者 公 益 財 団 法 人 八 正 会（トンボ育英事業団体）
郵便番号七〇〇〇九八五

岡山市北区厚生町二丁目二番九号

（株）トンボ内 電話〇八六―二三二―〇三二―

印刷所 協同精版印刷株式会社

平成二十九年三月